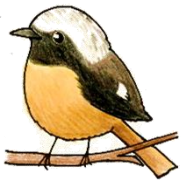
公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2018年
12月号



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆京都支部からの情報「探鳥会による野鳥への影響と京都支部の取り組み」・・・・・・・1
◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・3
・特集・初心者向けバードウォッチング②
（埼玉、神奈川支部、大阪支部、東京）
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・15
（2018年10月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・17
・春期開催分「初心者向けバードウォッチング」
実施概要をお送りください
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・・18
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・19
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・19

◆京都支部からの情報「探鳥会による野鳥への影響と京都支部の取り組み」

京都支部より、平成30年度連携団体全国総会にて発表された内容についての原稿をお寄せいただきました。

探鳥会による野鳥への影響と京都支部の取り組み

■京都御苑・京都御所について

京都御苑・京都御所は京都市内の中心にあり、東西約700m、南北1,300mのほぼ長方形の形をしています。中心部分には宮内庁管轄の京都御所、大宮御所、仙洞御所があり、周囲の部分は環境省管轄の京都御苑となっています。総面積は約91ヘクタールあり静かな環境が保たれています。京都御苑部分は一般開放されており、終日立入りすることができ、市民の憩いの場所でもあります。京都御所は現在の東京御所の前の御所にあたる施設であり、約1,000年以上皇居であった場所で建築物と自然が共存した環境が維持されているため、マツ、クス、ケヤキ、イチョウ等の巨木が多く、約7万本の樹木が生育しています。

■京都御苑で夜間探鳥会を実施

1983年日ソ渡り鳥条約会議のために訪日中の来賓客（鳥類学者）が会議終了後、京都御所の見学に訪れたとき、この地に生息している鳥類について質問がありましたが、管理担当者は答えることができませんでした。これがきっかけで、その後に京都御苑管理事務所より日本野鳥の会京都支部に鳥類の調査依頼があり、京都支部が1年間京都御苑の鳥類調査を実施しました。

調査計画の策定にあたり、複数のアオバズクの繁殖が予想され、1984年7月に夜間調査を実施しました。その結果、鳥類が年間52種とアオバズクは7ペアーも確認しました。しかも、フクロウの生息も確認でき調査者も驚きの結果となりました。アオバズク繁殖ペアーのうち1ペアーの巣は観察条件が良いうえに、地下鉄の駅から3分程度の位置にありました。

そこで、翌年京都支部で初めての夜間探鳥会を実施したところ、参加者は70名と盛況な結果になりました。これ以降、京都支部は毎年京都御苑の夜間探鳥会を続けました。この情報は今では近隣の支部、自然保護団体に広く伝わり、年々観察団体、カメラマンが多く集まるようになりました。それにつれて、マナーの悪い人、騒ぎすぎる団体が増えてきました。

■アオバズクの観察にあたっての配慮

観察者が多い営巣木周囲にはロープを張り、警告看板を取り付けてもあまりにも多くの人が集まり、結果、巣立ち前の雛が親の警戒音に驚いて塀や樹木に激突し、巣立ちに失敗する事

例が続きました。
　そこで、2018 年京都支部は事前の室内例会（講習）を開催しました。当日は京都御所のアオバズクに詳しく保護に尽力している西台先生をお招きし、アオバズクの繁殖活動や観察方法の注意点等の説明会を受けました。この講習を元に、京都支部の探鳥会をアオバズクに与える影響の多い夜間探鳥会から昼間探鳥会に変更しました。さらに、日程を雛の巣立ち後に変更しました。
　室内例会での注意点は次の内容です。
「ヒナが元気に巣立つためには、巣穴で十分に成長してから巣立つことが重要。」
「観察会は親鳥が警戒音を出さなくても良い環境で優しく見守る。」
アオバズクの観察・撮影マナー
①近づきすぎない
②大きな声や音を出さない
③光を当てない
　当日は巣から離れた場所でアオバズクの説明と観察方法、注意事項の説明をしてから親と巣立ち雛を観察しましたが、探鳥会に参加するのが初めての人もいて参加者数が多かったため、アオバズクに影響はあったようです。2019 年はある程度野鳥と夜行性の鳥、アオバズクの知識がある人を対象に会員のみの探鳥会にする計画を考えています。

▲2018 年度の観察会の様子

　京都支部ではこれまで野鳥への影響（繁殖）を考慮してフクロウ、サンコウチョウ、オオルリ、ハヤブサ等の探鳥会を取りやめた経緯があります。御所のアオバズク探鳥会は観察側の配慮でなんとか続けたいと考えています。

■フクロウ、アオバズクの営巣場所を守る取り組み

　2018 年は京都府内に豪雨、台風の影響で山野、平野部でも倒木が多く京都府内の神社仏閣にも多くの被害が発生しました。
　京都御苑も倒木が多く、９月の京都支部主催京都御苑探鳥会も中止となるありさまでした。一番人気の営巣木前の樹木も倒れ来年の繁殖も懸念されます。
　今回の災害で知ったのですが、京都府は危険木の伐採に補助金を助成しており、積極的に伐木を進めています。危険木とは枯れた樹木、洞のある樹木等が対象です。今年度より京都市も同様の補助金を出すようになりました。
　京都支部が以前フクロウの調査をした際は、東西 5km、南北 4km の調査範囲内に 13 個体を確認しました。全フクロウの営巣地のうち、神社仏閣の森には８箇所（62%）、公共施設の森には２箇所（15%）自然林３箇所（23%）で生息を確認しました。神社の森が大切な繁殖地であり、危険木と判断すれば多くのフクロウ、アオバズク、ムササビの営巣木が失われます。ＴＶニュースでは実際に、伐木が行われた神社の関係者が、鬱蒼として暗い神社が明るく開放的になり人も来るようになったと喜んでいるニースがありました。
　この件の確認のため、11 月末に京都府の担当者と京都市の担当者と面談、打合せをおこないました。
　京都支部は神社・仏閣の森は野鳥・動物の繁殖に重要な環境であることを説明しました。
　担当者より、文化財保全と共に、現在京都は観光客（インバウンド）が増加し、大きな経済効果もある事や、観光客の安全対策も必要であることから、最低限度の伐木は必要であるが、今後は事前に確認し伐木に配慮頂ける事になりました。
　京都の神社仏閣の森でアオバズク、フクロウが今後も繁殖を続けられるよう見守ります。

（京都支部／船瀬茂信）

◆探鳥会訪問記

■特集・初心者向けバードウォッチング②■

今月号では、以下の５回の「初心者向けバードウォッチング」（表１）について紹介します。

表1.

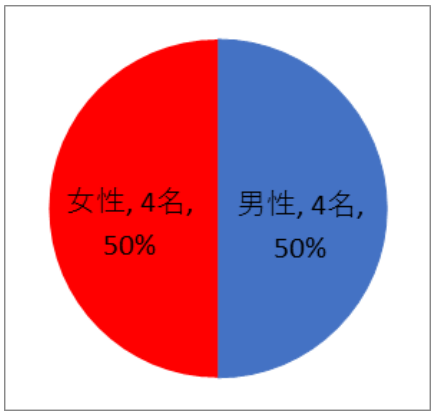
実施日	支部	実施場所	
2018/11/17(土)	埼玉	さいたま市	見沼自然公園
2018/11/18(日)	神奈川支部	三浦市	三浦海岸
	大阪支部	大阪市 東住吉区	自然史博物館　長居植物園
2018/11/23(金・祝)	東京	千代田区	日比谷公園
2018/11/24(土)	埼玉	蓮田市	黒浜沼

親子でバードウォッチング in 見沼自然公園（埼玉）

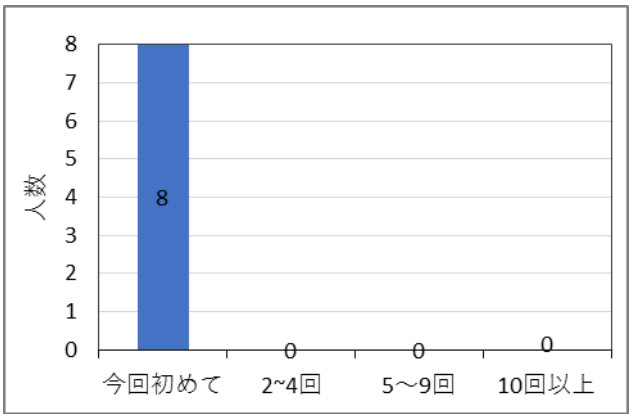
【日程】2018年11月17日（土）9時00分～12時15分
【場所】見沼自然公園（埼玉県さいたま市）
【天候】晴れ
【参加者】7組16名（うち一般参加者8名）
【リーダー】4名、財団職員2名
【広報】
＜インターネット＞支部HP／Facebook／twitter、財団HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約60,000名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10月初旬から全国約65,000名に送付）

※グラフは、アンケートに記入された8名について集計しています。

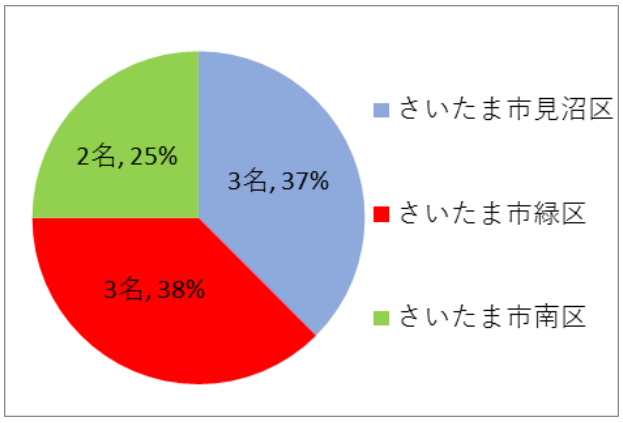
【性別】



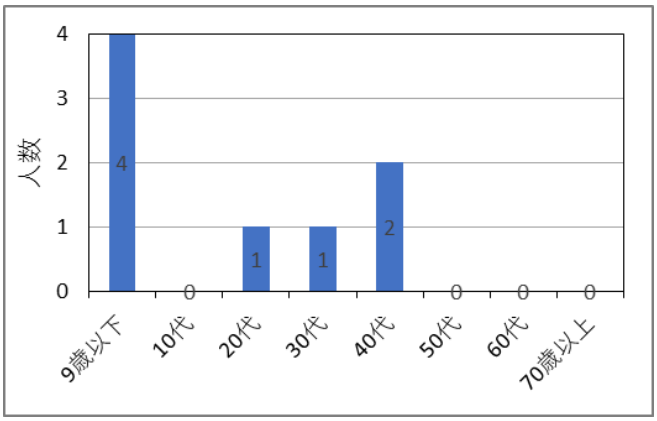
【バードウォッチングの経験回数】



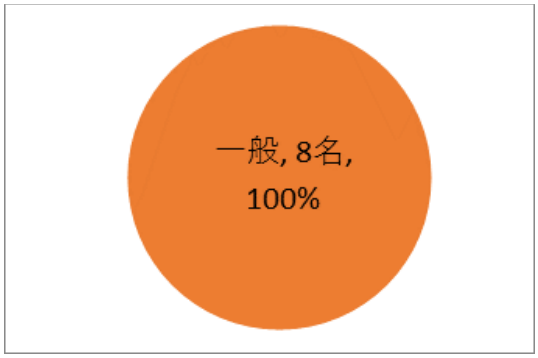
【お住まい】



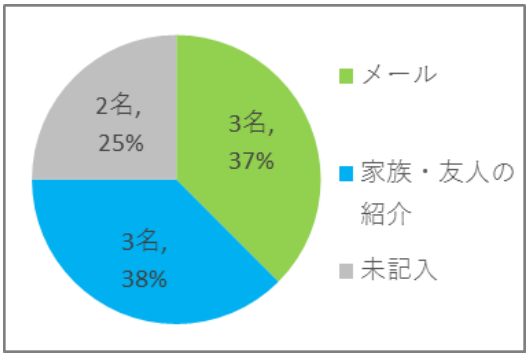
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

見沼自然公園は、江戸時代に干拓された見沼田んぼにあり、園内には、芝生や池、雑木林があります。親子向けの探鳥会は、埼玉で初開催。池を一周して集合場所付近の芝生に戻り、お昼を食べて解散となる約１ｋｍのコースが設定されていました。当日は、初参加の親子と常連の親子、それぞれ３組が参加しました。

■探鳥会の様子

探鳥会は、始終和やかな温かい雰囲気の中で進みました。始めの挨拶では、リーダーから、「小さいお子様の集中力によっては、途中で離脱されたり、おやつを食べたりしても全く大丈夫です。その際は、スタッフに一声お掛けください。」
とお話しがあり、初めて参加された方もホッとされていたようでした。スタート前にはしっかりトイレ休憩をとり、９時２０分頃に歩きはじめました。芝生では、カモが群れで草を食べていました。リーダーが常連で参加している男の子たちに、
「何の鳥か分かる？」
と聞くと
「ヒドリガモとオナガガモ！」
とすぐ答えが返り、参加者から驚きの声が聞かれます。続いて、笑顔のリーダーから
「今日は識別任せるね。」
の一言。男の子の腕には、「SUPPORT（サポート）」の腕章があり、子どもたちが活躍する仕組みが根付いていることを感じさせます。

▲子ども用に、スマートフォンとスコープを組み合わせて、鳥を見せる

池に着くと、子どもたちは水際に落ちている鳥の羽が気になる様子。リーダーは
「触ったら念のため手を洗いましょうね。」
と伝えつつ、離れても元通りになる羽枝の仕組みなどを紹介していました。またカルガモの翼鏡をファイルしたものも持参され、参加者は、光に当てたりしながら綺麗な色を楽しんでいました。

池の周りを歩いていると、見やすい場所にカワセミがいたり、雑木林の中では、混群に出会えたりし、計２６種の野鳥を観察できました。

１１時過ぎに、芝生にレジャーシートを敷き、早めのお昼となりました。あいにく初めて参加された３組の親子は、お昼を持参されていなかったため、ここでお帰りになることになりました。リーダーから個別に、次回のお誘いや、入会の案内などをお伝えされていました。

■参加者の声

２歳の男の子のお父さん：数年前に小冊子「鳴き声ノート」に申込み、その後、郵送やメールの案内が届くようになりました。なかなか日程が合いませんでしたが、今回は予定が空いており、親子で参加できるということなので、妻と息子、同僚親子も誘って初めて参加しました。カワセミが見られて感動しました。

小学２年生の男の子のお母さん：昔から息子が鳥に興味を持っていました。昨年、大宮公園で開催された初心者向け探鳥会に初めて参加し、その後、埼玉の探鳥会に何度も参加しています。私も野鳥に興味が出てきて、とても楽しいです。

■まとめ

今回の探鳥会リーダーの中に、４年前、この場所で開催された初心者向け探鳥会に初参加されたお母さんがいらっしゃいました。その時の探鳥会をきっかけに、家族で、定例探鳥会に継続して参加するようになり（息子さんも旦那さんも鳥好きになったそうです）、今日がリーダーデビュー２回目だったとのこと。参加者が今ではリーダーとして活躍している姿に、定例探鳥会等に参加した際の埼玉の皆さんの温かい声かけやフォローが目に浮かび、感慨深い気持ちになりました。

初の親子探鳥会は、鳥以外のものに夢中な子がいても誰もがにこやかに見守り、子どものペースを尊重する大変雰囲気の良い探鳥会でした。初めて参加された親子の中で、今日をきっかけに、探鳥会に継続して参加する方が出てくると良いなと思いました。

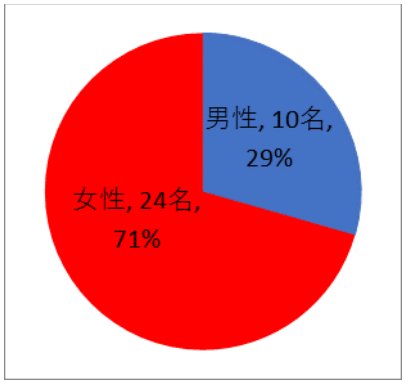
※この日は、さいたま市の小学校の登校日と重なっていたそうです。親子向けを開催する際の注意事項として反省にあがっていました。

（普及室／堀本理華）

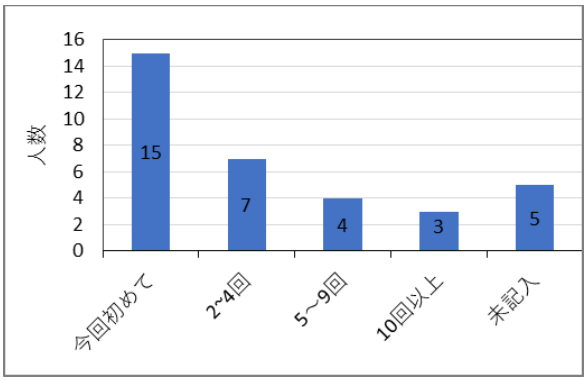
三浦海岸で野鳥観察を楽しみませんか（神奈川支部）

【日時】2018 年 11 月 18 日（日）9 時 30 分～12 時 00 分
【場所】三浦海岸駅周辺（神奈川県三浦市）
【天候】晴れ
【参加者】34 名（うち一般参加者 30 名）
【リーダー】５名、財団職員２名
【広報】
＜インターネット＞財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

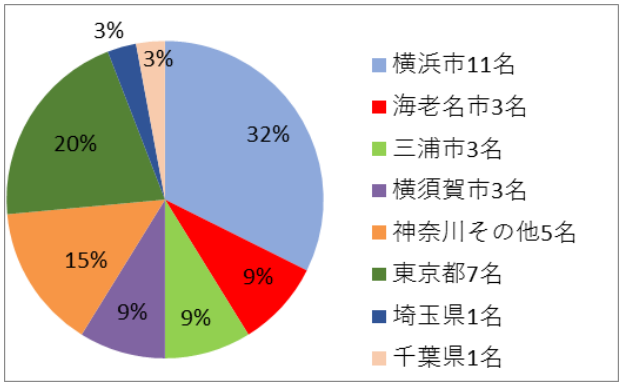
【性別】



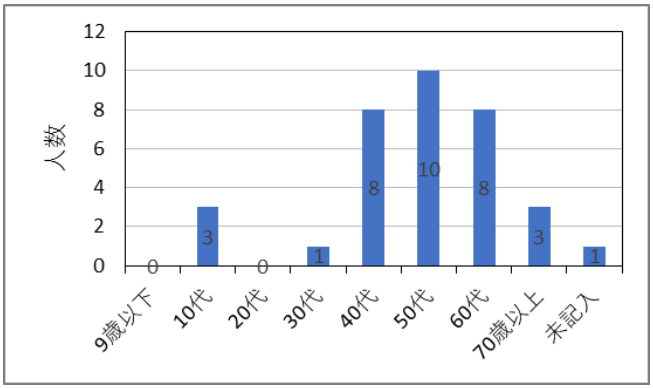
【バードウォッチングの経験回数】



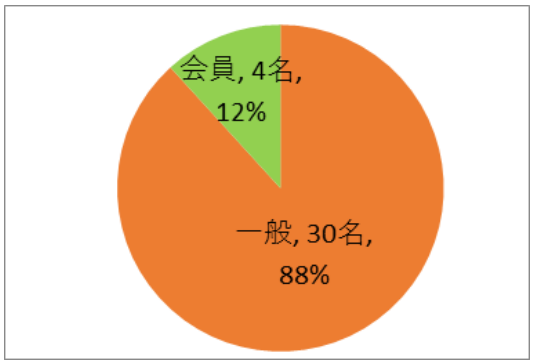
【お住まい】



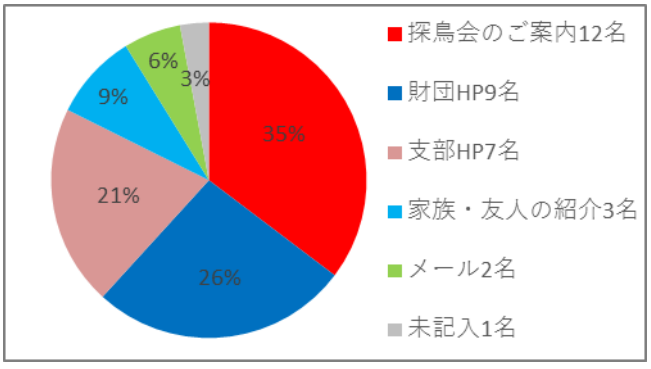
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

神奈川県三浦半島の先の方にある三浦海岸駅周辺は住宅地と農耕地、そして海岸といった様々な環境が入り混じり、山野の鳥・水辺の鳥が両方みられる環境です。今回は定員 40 名の事前申込制で行い、ちょうど 40 名程の申し込みがあり、全員受付となりました。

■探鳥会の様子

三浦海岸駅改札前にて受付を行い、参加者には小冊子「おさんぽ鳥図鑑」、神奈川支部オリジナルポストカート、支部報、ひなどり会員（お試し入会）の説明書を配布しました。参加者が集まると、挨拶、リーダーの紹介、今日見る場所などの説明を経て、３グループに分かれ、各1～2 名のリーダーがついて出発しました。

まずは住宅地を抜けて「小松が池公園」に向かいます。流石は海の街、公園に向かう途中の道でも上空を数羽のトビが旋回。双眼鏡がなくても肉眼で十分に楽しめます。「カラスとの見分け方は尾の形」と説明があり、みなさん熱心に聞いてメモをとっている方も見受けられました。

小松が池公園は大きな広場があるわけではありませんでしたが、人通りは少ないため、池沿いに横に広がってゆっくり観察することができました。カワセミの声が聞こえ、池を横切る姿が見えると参加者のみなさんの気持ちが昂ります。やはり、青い鳥カワセミは人気者。参加者の食いつき方が違います。

「さっきの声がカワセミ？」
「どこにいるの？」
「私も見たい！」

と様々な声が飛び交います。道を挟んで池の反対側には畑や藪が広がり、トビやアオサギの姿が見られ、ウグイスの地鳴きも聞こえてきました。比較的近距離にいたアオサギは動きが遅いため望遠鏡や双眼鏡にもとらえやすく、初心者には見ごたえがあったようです。今回はカマキリを食べているところも観察できました。一か所で様々な野鳥が姿を見せるため、リーダーのみなさんが方々で様々な野鳥の解説をしていました。

トイレ休憩をはさみ、海岸へ向かいます。少し距離はありましたが、その途中でも街路樹に見つけた古巣や、生垣から聞こえるメジロの声などを参加者のみなさんは楽しんでいるようでした。天気の良い日曜日ということもあり、

▲小松が池公園での観察の様子

海辺には子どもたちやウインドサーファーが多く、期待していたカモメははるか遠くに。しかし、これもまた野鳥が相手のバードウォッチングならではのこと。参加者の多くは海辺に来たことを楽しんでいるようでした。

駅前まで戻ってから、鳥合わせとお試し入会の説明を行い、解散となりました。

■参加者の声

60 代男性：近所なのですが、野鳥はハトやカラス、スズメくらいしか知りませんでした。本当に家の近くなのに、こんなにたくさんの野鳥が見られるとは思わず、驚きました。

■まとめ

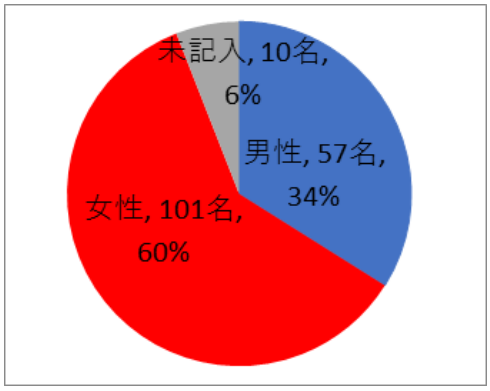
リーダーと参加者の距離が近く、終始雰囲気の良い探鳥会でした。遠くから参加された方や、バードウォッチング経験のある方、はじめからお試し入会を考えていた方など意欲の高い方が多く見受けられ、探鳥会中のコミュニケーションも多く積極的に楽しまれている様子でした。また、オリジナルポストカードの配布や、お試し入会者へは缶バッジをプレゼントするなど参加者をもてなす工夫をされているのが良かったです。今回は８名のお試し入会がありましたが、「もう少し頑張りたかった」とリーダーのみなさん。今回の探鳥会は初心者向け探鳥会初挑戦のリーダーさんが他のリーダーの皆さんと協力して実施しており、反省点はありましたが、手ごたえを感じた探鳥会でした。

（普及室／大久保明香）

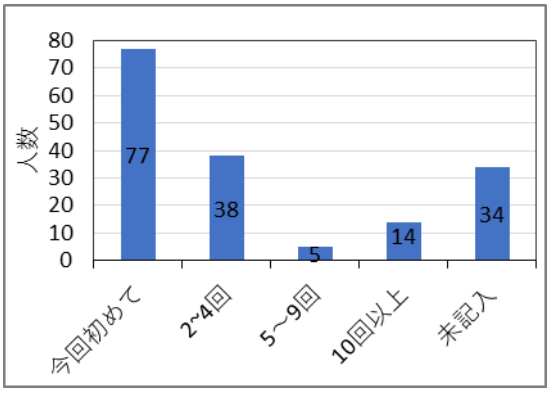
はじめての鳥見たい（隊）！in　大阪自然史フェスティバル（大阪支部）

【日時】2018 年 11 月 18 日（日）
　　午前の回：10 時 30 分～12 時 00 分、午後の回：13 時 30 分～15 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】大阪市立自然史博物館・長居植物園　（大阪府大阪市東住吉区）
【参加者】午前 98 名、午後 70 名、合計 168 名（うち一般 150 名）
【リーダー】午前：11 名、財団職員２名　午後：13 名、財団職員２名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）
※ほか、「大阪自然史フェスティバル」の各種広報に掲載

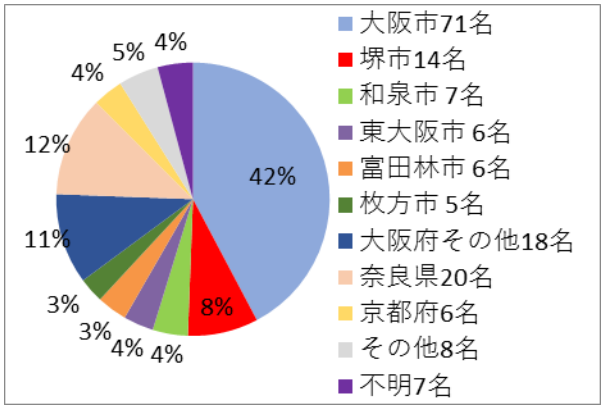
【性別】



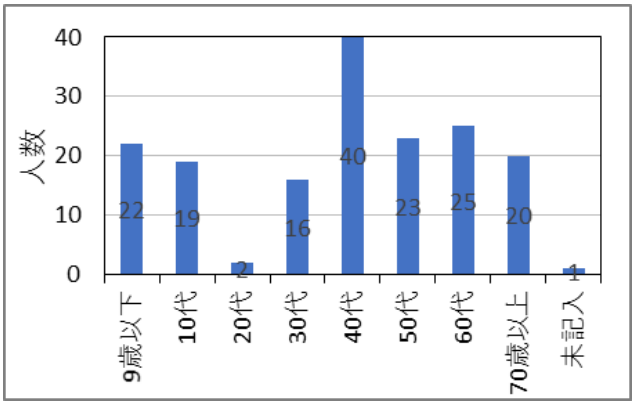
【バードウォッチングの経験回数】



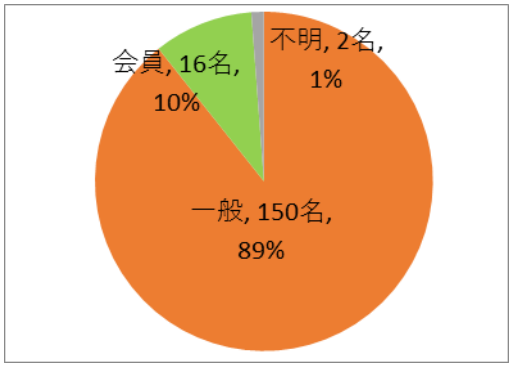
【お住まい】



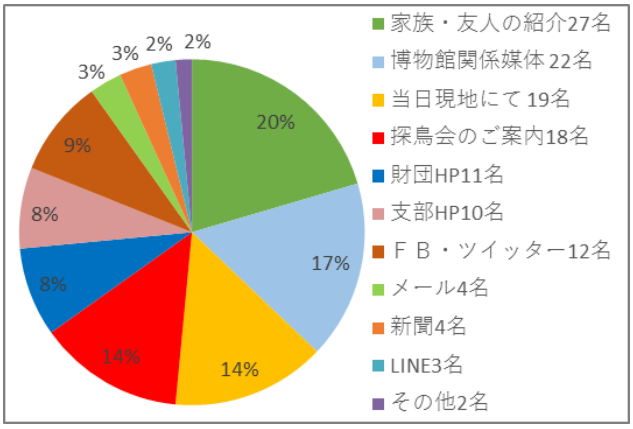
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

大阪市南部・長居公園内にある大阪自然史博物館を中心に開催される「大阪自然史フェスティバル」は、関西随一の「自然派市民の文化祭」として年々規模を大きくしながら今年で 10 回目を数えます。

大阪支部は毎年このイベントのタイアップ企画として、隣接する長居植物園で初心者向け探鳥会を実施されています。当日受付、午前・午後の 2 回、それぞれ各先着 50 名、所要時間 1 時間 30 分の内容です。

今年度は、探鳥会当日の長居植物園入場無料の特典がなくなってしまったことや、探鳥会参加受け付け時のカード式名簿の導入など、例年とは違った要素がある中、2 日間のフェスティバル会場での「むくどり会員獲得 50 名」(!!)を目標に掲げて「会員拡大キャンペーン」を大々的に展開した大阪支部。いったいどんな探鳥会だったのか、運営のポイントを中心にお伝えします。(※「むくどり会員」は大阪支部のお試し会員名称です。)

■当日のスタッフミーティング

大阪支部では例年のここでの探鳥会の経験から各回 100 名規模の参加者を想定し、10 人以上のリーダーを確保し、探鳥会当日の受付開始前の 5 分ほどのスタッフミーティングで、5 グループに分けること、コース、時間配分、それぞれのグループで鳥合わせ・まとめ・むくどり会員の PR までを実施することなど、運営方針の共有をなさっていました。

また大阪支部の出展ブースのスタッフとも、探鳥会への参加者の誘導や、探鳥会終了後に参加者が殺到することを事前に共有していらっしゃいました。

■受付の様子

当日は暖かく、風もない、絶好の行楽日和。

フェスティバル総合パンフレットにも大きく「はじめての鳥見たい(隊)!」の案内が掲載されており、受付開始 30 分前には場内に予告アナウンスが流れるなど、来場者へのアピールはしっかりなされました。植物園への入園が有料(大人 200 円)になったことがどのぐらい参加者の集まりに影響するかが懸念されましたが、幸い大きな制約要因にはならなかったようで、場内アナウンスの後、次々と参加者が集まってきました。

参加者の受付けへの誘導を 2、3 人、名簿記入のお願い・回収を 5、6 人、資料の配布を 2、3 人のリーダーが上手に分担し、100 人近い参加者(午前の回)の受付でも大きく混乱することはありませんでした。

初めて導入したカード式受付名簿は、参加者にとっては他の参加者を気にせず書くことができ、個人情報も抵抗なく記入頂いている印象を受けました。ただ、ゆっくり書くことができるため記入用ボードの占有時間はやや長くなるようで、大人数の受付の場合はもう少しボードの枚数を増やしてもよいのではと思いました。

■探鳥会の様子

定刻通りに探鳥会が始まりました。今回の探鳥会では残念ながらハンドマイクが用意できず、最初のオリエンテーションではイベントの喧騒と大人数のためリーダーの声を届かせるためにとても苦労しておられました。各グループに分かれてから、担当リーダーがしっかり自己紹介して、聞き取りにくかった最初の全体説明を補足するなど、グループの結束を固めます。

複数のグループが一つの観察場所に集中しないよう、分散してコース移動しながら公園内を巡ります。水辺ではカモ類やオオバンをじっくり観察することができました。カワセミが現れた時には、スコープを覗いた参加者から
「かわいい!」
「すごくきれい!」
と感嘆の声が次々と上がっていました。

集合地点近くの静かな木立の中でグループ毎に、鳥合わせ、支部の活動紹介、チラシを使ってのむくどり会員入会のお誘いをして 1 時間 30 分の探鳥会が締めくくられました。参加者はとても楽しい時間を過ごせたようで、どのグループも笑顔があふれていました。

▲みんなでカワセミを探す

■「むくどり会員」獲得大作戦!

大阪支部では自然史フェスティバル 2 日間を通じてブース出展をしており、そちらでも入

会案内をしました。今回は大阪支部オリジナルの入会案内チラシの裏面に「会員拡大キャンペーン実施中」と赤文字で大書し、２日間限定の特典も盛り込んだ特別バージョンのチラシを作製。出展ブースでの配布と共に探鳥会参加者全てに配布して、探鳥会の締めくくりの時に各リーダーが再アナウンスしました。シンプルですが、むくどり会員の特典とこの会場で申し込みすることのお得感をもれなく伝えるチラシがあることで、慌ただしくなりがちな探鳥会の締めくくりでも、どのリーダーもしっかりとむくどり会員の PR ができていました。

楽しい探鳥会の余韻、チラシというツール、イベント会場というお祭りムードなどが相まって、探鳥会後には大阪支部ブースに次々とむくどり会員申し込みの方が訪れ、午後の探鳥会後まもなく申込者 50 名を達成！支部を挙げて取り組まれた「会員拡大キャンペーン」は素晴らしい成果を上げました。

▲支部ブースはむくどり会員（お試し入会）受付で大忙し

■まとめ

大型の探鳥会になればなるほど、スタッフの情報共有がスムーズな運営の可否を分けるポイントになるようです。たとえ短時間のスタッフミーティングでも、全員が顔を合わせて同じ目的意識を持つことが今回のむくどり会員 50 名獲得達成に大きく寄与しているのは間違いないと思いました。

（普及室／浅野綾子）

日本野鳥の会東京おためし入会付き　日比谷公園とお濠でバードウォッチング（東京）

【日程】2018 年 11 月 23 日（祝・金）10 時 00 分～12 時 00 分
【場所】日比谷公園、皇居日比谷濠（東京都千代田区）
【天候】晴れ
【参加者】50 名
【リーダー】９名、財団職員４名
【広報】
＜インターネット＞財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

■「おためし入会付き」探鳥会

この探鳥会は、「初心者向けバードウォッチング」では初めてとなる「おためし入会付き」の探鳥会です。事前申込み制で、１グループにつき代表者 １ 名がお試し入会される仕組みとなっています。参加費は、人数分の参加費 200 円（18 歳以上）と、お試し入会の費用 1000 円です。

日本野鳥の会東京では今年度の「ツバメのねぐら入り観察会」で、初めての「おためし入会つき」の探鳥会を実施しました。定員 20 名に対し、82 組 144 名もの申し込みがあるほどの人気ぶりでした。（当日の様子は、2018 年９月号をご覧ください。http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201809.pdf ）

今回は、リーダーが多く集まったことや当日のキャンセル率等を考慮して、41 組 73 名の申込みから、35 組 63 名を当選とし、当日は 30 組 50 名の方が参加しました。

■たくさんの探鳥会運営の工夫

探鳥会当日の受付では、お試し入会の費用やグループ全員分の参加費の徴収、各種資料、領

収書のお渡しなど様々な手続きがあります。受付を始める前の打ち合わせで、探鳥会リーダーと財団職員９名がそれぞれの役割を決めて、手続きの順番に沿って一列に並び、参加者に対応しました。

受付が済んだ参加者は、少し離れた広い場所に移動。そちらでは、リーダーの方々が双眼鏡の使い方の解説や望遠鏡の体験のおすすめ、鳥を見る際のコツの説明などで参加者と和やかな雰囲気をつくっていました。

開始時間になると、リーダーの石亀さんが挨拶をしました。参加者を支部の仲間として歓迎する気持ちや、これからも探鳥会に参加してバードウォッチングを楽しんでほしい、という想いが込められていて、探鳥会の場がさらに打ち解けた雰囲気になりました。探鳥会の流れや安全のための注意を伝えてから、３つのグループに分かれました。

参加者 15～20 名ほどの各グループにはリーダーが３名つき、グループごとに観察しました。参加者の方々はほとんどの方が双眼鏡を持参していました。コースは、日比谷公園に隣接した皇居日比谷濠でゆっくりと水辺の鳥を観察してから、日比谷公園で小鳥や池の水鳥を観察し、園内で解散する、というものです。

日比谷濠では、参加者の双眼鏡とリーダーの望遠鏡、参加者に配布した「おさんぽ鳥図鑑」を使いながら、キンクロハジロやカワウなどをゆっくりと観察しました。次々に違う種類の野鳥を観察していくのではなく、皆で観察している野鳥について、リーダーの方々は
「おさんぽ鳥図鑑の〇ページを見てください。」
と、参加者と一緒に小冊子を使いながら、その野鳥の生態や名前の由来など様々な解説をされていて、参加者は熱心に聞き入っていました。

日比谷公園内では、スズメやハクセキレイなどを観察。街中で比較的よく見られる野鳥も、リーダーの解説を聞きながらじっくり観察することで
「かわいい！」
と、盛り上がりました。

▲望遠鏡をのぞいて鳥を見つけよう、と書かれたパネルを取り付けた望遠鏡

探鳥会の最後の 30 分は、３グループが集合して探鳥会のまとめをしました。鳥合わせのほか、支部の方が作成した日本野鳥の会東京の探鳥会の紹介チラシを配布し、定例探鳥会の案内をしました。ぜひ、これから定例の探鳥会にも参加してほしい、という言葉とともに、各探鳥会の魅力や、「この探鳥会はここにいる〇〇さんが担当です」とリーダーの紹介をされていました。こうした紹介をされることで、参加者の方は定例探鳥会にさらに参加しやすくなったのではないかと思います。

▲フリーハンドマイク、クリアファイルの紙芝居を使って最後の案内

解散後も、残ってリーダーに質問をしていく参加者が多くみられて、バードウォッチングに興味のある参加者が多いことがうかがえました。

■参加者の声

40 代女性：定例探鳥会では 40 種類くらいの野鳥が見られると聞いて、とても驚いた。今日も、10 種類も見られないだろうと思っていたのに、こんなに鳥が見られて嬉しい。定例探鳥会にも行って、カワセミが見てみたい。

■まとめ

参加者の代表者はみな、お試し入会した方々であるため、この方々にぜひ、定例探鳥会に参加して正式入会してほしい…というリーダーの方の想いが随所に込められていました。

探鳥会が終始よい雰囲気だった理由として、リーダーの人数が多く、探鳥会の受付後から解散まで、参加者とリーダーがいつでも気軽に話すことができたことがあります。また、参加者の方々がお試し入会することを前提に申し込まれた方々のため、鳥を見たい気持ちの強い方が多かったことなどが考えられるかと思いま

した。
　これに加えて、探鳥会終了後の反省会では、グループを無作為に分けるのではなく、親子はまとめて１グループにすることで、大人だけで参加する方も遠慮せずに望遠鏡で観察ができるのでは？といった意見が挙がっていました。

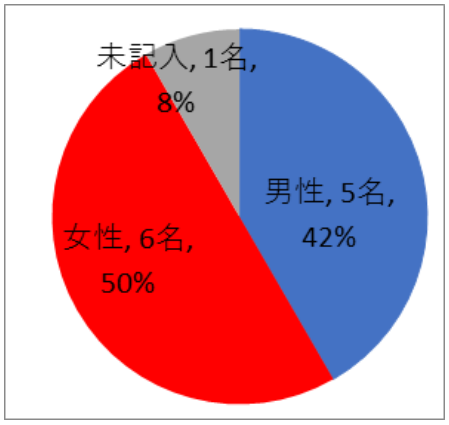
　日本野鳥の会東京では、同じ内容の探鳥会を12 月 1 日に開催され、31 組 67 名の方が参加されたほか、冬期にも３回開催する予定です。

（普及室／井上奈津美）

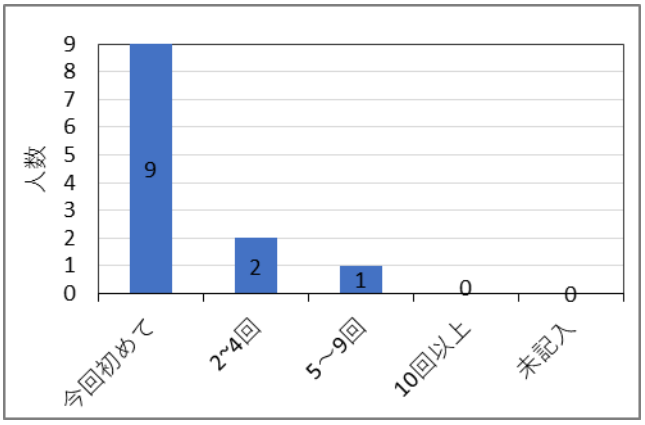
初心者向けバードウォッチング 黒浜沼

【日程】2018 年 11 月 24 日（土）9 時 30 分～12 時 00 分
【場所】黒浜沼（埼玉県蓮田市）
【天候】晴れ
【参加者】12 名（うち一般参加者 11 名、会員 1 名）
【リーダー】4 名、財団職員 1 名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP／Facebook／twitter、財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/1～5、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

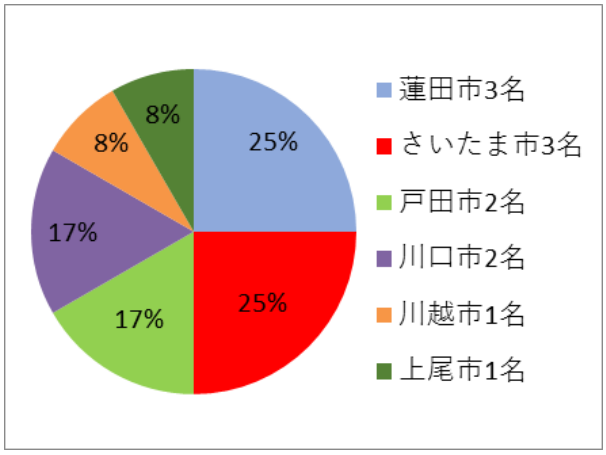
【性別】



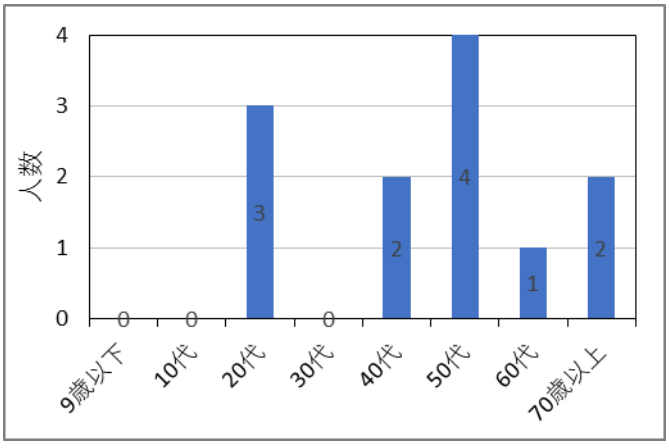
【バードウォッチングの経験回数】



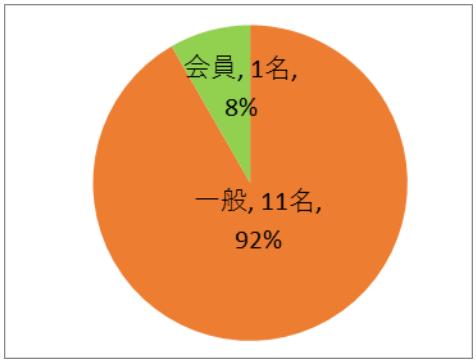
【お住まい】



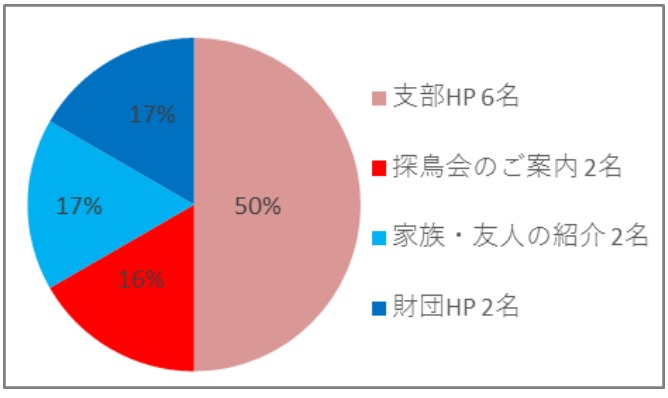
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■開催地の概要

開催場所である黒浜沼は、さいたま緑のトラスト協会のトラスト地で、ため池、ヨシ原、草原があり、一部には畑や田んぼが再現されています。周辺部は宅地化が進んでいますが、脇道に入ると里地の雰囲気が残っている地域です。

水鳥や草原の鳥が観察でき、周辺部でもヒヨドリやムクドリの声が途切れることなく聞こえていて、野鳥の個体数は多い印象がありました。

最寄りの駅からは 2.5km ほど離れているため、参加にあたっての交通手段はバスか自家用車を案内しています。

また、足場が悪いところもあり、長靴があった方がよいという印象です。お年寄りには少し歩くのが大変な様子も見受けられました。

■探鳥会の様子

当日は天候も良く、暖かく、バードウォッチング日和でした。

地域のマラソン大会と日程が重なったため、当初駐車場所としていたスペースに駐車できず、リーダーは 300m ほど離れた駐車場へと誘導しました。バスも遅れていたようで、集合時間後に到着した参加者もみられました。

受付と最初の説明は、県の施設を使って、屋内での対応となりました。参加者は 12 名で、20 代～70 代まで、幅広い年齢層でした。12 名という人数であったこと、屋内での対応であったことから、ゆったりとした雰囲気で、参加者とリーダーとの気持ちの部分での距離感が近くなった印象を受けました。その距離感のまま、観察会の間、終始良いムードが続きました。

最初に、リーダーの紹介、コースや時間の予定、危険個所の説明、体調不良や事故の場合のリーダーへの申し出、途中で帰る場合のリーダーへの申し出など、注意事項の説明をしました。あわせて、観察できる野鳥の紹介もしました。

特に今回は、マラソン大会の影響で周囲の道路が封鎖され、バスも観察会終了後でないと動かないことをアナウンスし、途中で帰るのはリスクが大きいことをはっきりと伝えました。

観察は、田んぼと周辺の草地で、双眼鏡の使い方の説明。最初に、池に移動し、最も見やすいカモ類やオオバン、アオサギ等の水鳥を観察。マラソンランナーが来る前に、マラソンコース外に避難し、ヨシ原と水路で、小鳥類やカワセミを観察。その後、周辺部で鳴いているウグイスの声を聞いたり、上空を飛んでいるオオタカをしっかりと観察したりして、スタート地点に戻りました。

まとめは、最初と同じ屋内で行い、「鳥合わせ」に沿って野鳥の解説と、双眼鏡や図鑑の紹介、入会と次回の観察会のお誘い等の話をして終了しました。

全体の雰囲気も良く、また、落ち着いた中で、図鑑等の話ができたためか、参加者は図鑑等を合計２万円近く購入していただきました。

▲和やかな雰囲気で鳥合わせ

■参加者の声

20 代カップル：女性が鳥好きで、数回探鳥会に参加したことがあり、今回は、彼氏を誘っての参加。一緒にバードウォッチングできたらと思い参加しましたとのこと。

70 代女性２名：近くなので、良い機会と思い、友達も誘って参加しました。自然も豊かで、鳥もたくさんいるので、鳥たちのことが分かるようになると面白いと思っています。

■程良いトークで距離感が！

長すぎず、押し過ぎずの程よいトークで、参加者とリーダーとの距離感が縮まった印象でした。前後の説明等の時間、観察の時間のバランスも良く、参加者は腹８分目。たくさん解説したいリーダーにとっては、腹６分目と言ったところでしょうか。初心者には、このくらいのバランスが良いと感じました。

■リーダーの役割分担も良かった！

最初と最後の説明の部分は主担当の石塚さんが行い、観察中は、石塚さんはフォローに回り、メインは若手リーダーの廣田さんが行うという、師弟？コンビの運営は、息も合っていて、素晴らしかったです。参加者側も、二人の掛け合いを楽しんだのではないでしょうか。

４人のリーダーがそれぞれ違った種類を観察するのではなく、まず１種を決めたら、その種を全員で望遠鏡に入れて、みんなで観察し、リーダーそれぞれが解説するという手法は、参加者を含めて、全体で一体感ができ、まさにチームプレーでした。　　（普及室／富岡辰先）

◆探鳥会保険集計結果（2018 年 10 月分）

10 月は 70 支部からご報告をいただき、計 245 回の探鳥会が開催され、のべ 5,960 人が参加されました。

表 2. 10 月の探鳥会保険集計結果（2018 年 11 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	0	0	0	0	0
根室支部	2	6	4	5	15
釧路支部	−	−	−	−	−
十勝支部	0	0	0	0	0
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	10	1	2	13
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	78	23	7	108
小樽支部	1	2	4	1	7
苫小牧支部	1	4	4	2	10
室蘭支部	1	9	1	3	13
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	9	6	3	18
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	27	0	3	30
秋田県支部	3	23	5	3	31
山形県支部	1	6	1	2	9
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	17	9	4	30
北上支部	−	−	−	−	−
宮城県支部	3	50	23	7	80
ふくしま	2	42	1	4	47
郡山支部	1	16	3	1	20
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	0	0	3	3
会津支部	1	4	0	1	5
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	21	4	1	26
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	7	66	35	8	109
栃木県支部	11	133	47	33	213
群馬	7	71	40	20	131
吾妻	2	49	8	4	61
埼玉	7	247	64	56	367
千葉県	7	104	26	26	156
東京	13	525	17	72	614
奥多摩支部	8	93	26	26	145
神奈川支部	9	119	24	26	169
新潟県	1	4	11	2	17
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	61	15	7	83
石川	2	54	17	5	76
福井県	2	15	31	12	58
長野支部	2	23	8	4	35
軽井沢支部	1	7	10	1	18
諏訪支部	0	0	0	0	0
木曽支部	1	6	3	2	11
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	43	6	4	53
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	6	0	2	8
南富士支部	2	40	0	2	42
南伊豆	1	7	0	2	9
静岡支部	1	7	2	2	11
遠江	2	35	5	6	46
愛知県支部	14	207	139	39	385
岐阜	-	-	-	-	-
三重	1	7	17	2	26
奈良支部	3	93	4	6	103
和歌山県支部	1	1	5	2	8
滋賀	6	48	26	12	86
京都支部	7	135	31	21	187
大阪支部	21	453	104	102	659
ひょうご	9	111	133	27	271
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	21	8	3	32
島根県支部	2	7	6	2	15
岡山県支部	4	90	35	13	138
広島県支部	4	59	22	5	86
山口県支部	4	24	17	4	45
香川県支部	2	80	20	3	103
徳島県支部	5	95	4	5	104
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	9	72	44	13	129
北九州支部	4	50	4	4	58
福岡支部	6	83	13	15	111
筑豊支部	4	73	12	4	89
筑後支部	4	28	3	8	39
佐賀県支部	1	17	7	2	26
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	79	22	6	107
大分県支部	1	19	5	1	25
宮崎県支部	4	39	67	6	112
鹿児島	3	52	58	9	119
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	245	3982	1290	688	5960

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■春期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください■

「初心者向けバードウォッチング」の春期（2019 年 4 月～6 月）開催分の実施概要を募集しております。

2018年12月18日付で支部事務局あてにご送付しました資料をご覧いただき、春期に「初心者向けバードウォッチング」を開催される支部のみなさまは、2019年2月15日（金）までに実施概要をお送りください。

なお、「初心者向けバードウォッチング」の詳細につきましては、2018 年 5 月に事務局にお送りしました「初心者向けバードウォッチング　支部など連携団体向け手引き」をご確認ください。

※来年度は、バードウィークに限定した全国一斉探鳥会の広報はいたしません。4 月～6 月におこなわれる「初心者向けバードウォッチング」の広報に集約させていただきます。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 12 月号の電子メール版の購読者数は、先月から 3 名増えて 847 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表 3. 探鳥会スタッフ通信 12 月号電子メール版の購読者数（2018 年 12 月 13 日現在）

支部	購読者数
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	1
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	5
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	5
秋田県支部	4
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	5
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木県支部	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	39
千葉県	24
東京	68
奥多摩支部	48
神奈川支部	25
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	2
石川	29
福井県	11

支部	購読者数
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	7
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	9
愛知県支部	44
岐阜	6
三重	19
奈良支部	3
和歌山県支部	5
滋賀	20
京都支部	31
大阪支部	27
ひょうご	15
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	13
岡山県支部	28
広島県支部	9
山口県支部	16
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	5
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	847

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

こちらはめっきり寒くなってきました。冬鳥がたくさん見られる頃…のはずですが、こちらでは冬鳥は少なめの印象です。みなさまの探鳥会はいかがでしたか？

「普及室からのお知らせ」では、春期の「初心者向けバードウォッチング」の募集について掲載しました。昨年度までは、秋から冬にかけての開催でしたが、今年度は 4 月から 6 月にかけての開催の募集をいたします。

秋冬は寒すぎて開催が難しい、冬だと鳥インフルエンザが心配…と開催をためらわれていた支部のみなさまも、開催のご検討をいただけますと幸いです。（その際はぜひ、5 月に事務局にお送りしました「初心者向けバードウォッチング　支部など連携団体向け手引き」をご参考にしてください。）

それでは、風邪などひかれないよう、お身体を大切にお過ごしください。

今年も「探鳥会スタッフ通信」をご愛読いただきまして、ありがとうございました。

どうぞ、よいお年をお迎えください。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第69号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2018年12月18日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org